

# 長生高等学校 120年のあゆみ

千葉県立長生高等学校創立120周年記念写真集



長生高校

110年のあゆみ

千葉県立長生高等学校創立110周年記念写真集

長生高校

二二〇年のあゆみ



千葉県立長生高等学校創立二二〇周年記念写真集

## 凡例

- 一 本書は、『創立八十年史』『創立百年史』および各年度の卒業アルバムの写真を基本としましたので、キャプションの年は使用した卒業アルバムの年となっています。
- 二 年号は元号暦を基準とし、必要に応じて西暦を（ ）で併記しました。また、昭和三十一年十一月三十日を昭和三十二年一月三〇日というふうに記しました。
- 三 人名には、本校で教鞭をとられた方のみ「先生」を用い、その他の方には「氏」や「さん」を用いました。ただし、校長群像には『創立百年史』に準じて敬称を略しました。
- 四 本文の漢字は常用漢字を基本に用いました。本文中の人名も、旧字体は用いずに新字体で表記できるものは新字体としました。ただし、校長群像では実際に使っていた字体としました。



# 目次

## 巻頭言

千葉県立長生高等学校創立一二〇周年記念事業実行委員会

委員長 安藤 轟勇 . . . . . 一

## 千葉県立長生高等学校創立一二〇周年記念

### 写真集の発刊に寄せて

千葉県立長生高等学校長 時田 正樹 . . . . . 三

一、草創のころ 上埴生学館・長生学校時代 . . . . . 五

二、私立大成館時代 . . . . . 七

■文化の光いち早く―千葉天夢先生― . . . . . 九

三、私立大成中学校時代 . . . . . 一三

四、千葉県立長生中学校時代 . . . . . 一五

■軍事教練 . . . . . 二一

■高師が原に若人の―校舎航空写真― . . . . . 二三

## 五、千葉県立長生高等学校時代 . . . . . 二五

■ 上総の春に輝きぬ―長高の四季― . . . . . 三三

■ 学びの窓にこだませり―授業風景― . . . . . 三五

■ 勢うも楽し空晴れて―体育祭― . . . . . 三九

■ 励めよ共に溢るる力―文化祭― . . . . . 四三

■ 文化祭のアーチ・ポスター . . . . . 四七

■ 修学旅行 . . . . . 五一

■ 新しき道いざ行かむ―創立記念式典― . . . . . 五五

## 六、定時制六〇周年史 . . . . . 五九

## 七、創立一二〇周年記念行事 . . . . . 六三

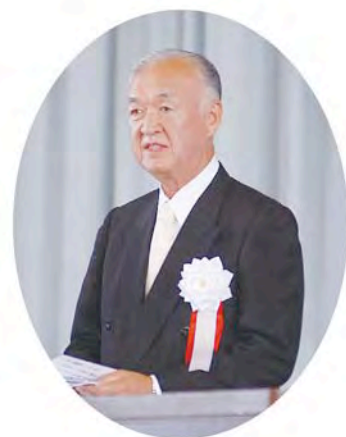
校長群像 . . . . . 六七

校章と校訓 . . . . . 六九

# 巻頭言

千葉県立長生高等学校一二〇周年記念事業実行委員会

委員長 安藤 轟勇



記念誌の発刊を心よりお喜び申し上げます。

去る平成二〇年十一月一日、千葉県立長生高等学校創立一二〇周年記念式典が、挙行されました。当日は、千葉県知事をはじめ多数の御来賓、同窓会員、長月会員、全日制・定時制生徒など一、二〇〇名以上が出席し、誠に盛大かつ厳粛な式典となりました。この誌面をお借りしまして、あらためてお礼申し上げます。

明治時代中期、大日本帝国憲法の草案審議が本格化し、国会開設に向けた取組みがなされていた明治二十一年、千葉県立長生高等学校は、現在の長生郡長南町に私立上埴生学館として産声をあげました。はじめは、五〇、六〇人の生徒であったとのこと。初代館長である鶴岡久行先生は、江戸時代の安政元年の生まれであり、この年はアメリカのペリーが再来日し、日米和親条約等が結ばれ、江戸幕府の二〇〇年以上にわたる鎖国政策にピリオドが打たれました。これだけでも、長生高校の歴史の重みをひしひしと感じずにはいられません。

その後、明治三四年、千葉天夢先生を館長とする私立大成館として茂原に移転し、大正一二年に県立に移管され、千葉県立長生中学校となりました。この県立移管式典が挙行された九月一日は、マグニチュード七・九の大地震、いわゆる関東大震災の当日でした。戦後復興の中、昭和二三年の新制高校発足により、千葉県立長生高等学校となり、途中、千葉県立長生第一高等学校と改称された時期もありましたが、現在に至っております。

創立以来、一二〇年余りの永きにわたり、格調高い教育理念に基づく日々の実践によって教育成果をあげ、地域における普通教育の拠点校として、幾多の英才を各界に送り出し、様々な分野で、地域社会や千葉県、さらには日本の発展に貢献してきました。

旧制長生中学校校歌の歌詞の中に、

二番 省みる世は滔々と、文明の華に酔はば酔へ

開花の色に酔はば酔へ、我は狂はじ華の夢

三番 経文緯武を心にて、若き血潮のたぎるとき

富貴の華の牡丹より、清き梨雪を思はずや

があります。

私なりに訳してみると、二番については、

『目をとめてよく見ると、この世は、よどみなく流れている。華やかな文明開花に酔うなら酔えばよい。私の志は、変わることはない。』

三番は、『文武両道を心に刻んで、若い血潮が胸の中にわき起こる。絢爛豪華な牡丹の花より、私は、邪心のない小さな白い花のように生きてゆきたい。』

この精神が、綿綿と受け継がれ、これからも「人間力」のあるたくましい後輩が、我が母校を巣立っていくことを切に希望してやみません。

結びに、記念誌発刊に際して、御協力・御尽力いただいたすべての皆様に、深く感謝申し上げますとともに、長生高等学校が未来に向けて益々発展されますようお祈り申し上げます。



## 千葉県立長生高等学校創立一二〇周年記念

### 写真集の発刊に寄せて

千葉県立長生高等学校長 時田 正樹

本校の前身である上埴生学館が明治二一（一八八八）年に創設されてから、今年で一二〇年になります。新制高校として千葉県立長生高等学校となったのが昭和二三（一九四八）年です。今年、本校が旧制中学校として六〇年間、新制高等学校として六〇年間を経たことになります。古代中国で生まれた紀年法が干支ですが、干支では十干と十二支を組み合わせた六〇年で一巡します。本校は、旧制と新制の各学校でそれぞれ一巡したわけで、真に記念すべき年であるということが言えましょう。

一月一四日には千葉県知事をはじめ多くの来賓のご臨席を賜り、創立一二〇周年記念式典が盛大かつ厳粛に挙行されました。私をはじめ職員・生徒一同は、本校の輝かしい伝統の重み、偉大な諸先輩の方々の業績や創設期など困難な時代の労苦に思いを致し、本校の一員であることの誇りと伝統を受け継ぐ責任の重さを改めて自覚しました。

記念事業につきましては、同日の記念講演と祝賀会に続いて、翌一月一五日から一月三〇日まで茂原市立美術館・郷土資料館において長生高等学校収蔵作品展が催され、期間中に約千人もの入場者を数え、無事終了しました。また、美術品展示室、トレーニングマシン、楽器、芝刈機、空調設備等の施設整備も、計画通り進行しております。また、刊行物としては収蔵作品図録及び記念誌が刊行されました。

このような記念事業の遂行とその財源である募金事業は、同窓会の皆様、保護者の皆様の多大なご尽力、とりわけ安藤同窓会長をはじめとする実行委員の皆様方のご尽力により計画通り実施することができました。改めて、心から御礼申し上げます。

さて、記念誌ですが、本校ではこれまでに『創立八十年史』と『創立百年史』が刊行されており本校の創立以来の歴史については詳細な調査に基づく立派な研究があることから、今回の記念誌では写真を中心に一二〇年のあゆみをまとめることとしました。また、この中から特に学校の有り様や時代の特色のあるものについては、本校中央廊下二階に展示し生徒が容易に見られるようにしました。貴重な写真を提供して下さいました皆様のお陰で本校の变迁を生き生きと感ずる事ができる記念誌となったように思います。また、この間資料の蒐集や整理にお骨折りいただいた編集委員の皆様にも、深く感謝申し上げます。

本校一二〇年の歴史に社会の変化を重ねると、その中に日清戦争、日露戦争を経て当時の国際社会の中で欧米以外では唯一独力で産業革命を推進し政治・経済の近代化を達成した日本の近代史が含まれています。このような社会の発展は、教育によって優れた人材を育成することによって可能になったのであります。今、百年に一度といわれる世界的な経済不況に際し、私達は教育の力を再認識し、本校の諸先輩に恥じぬ高い志をもって困難を克服することを重ねてお誓いし記念誌の刊行の結びの言葉といたします。



## 一、草創のころ

上埴生学館・長生学校時代

明治二二（一八八八）年～三四（一九〇一）年

長生高校は、明治二二（一八八八）年一〇月、現在の長南町今泉に設立された上埴生学館をそのスタートとしています。幕末の思想家嶺田楓江翁の教えを受けた鶴岡久行・唐鎌忠三郎・白井喜右衛門の三氏が設立に尽力しました。最初の建物は、五間（九メートル）×一〇間（八メートル）のちょうど五〇坪の大きさを、近隣の私塾の生徒を集めて、約五〇～六〇名ほどで始まったようです。初代館長は鶴岡久行（銀蔵）先生で、明治二三年からは当時の豊栄村の村長も兼ねました。教頭には、英語を担当した二〇代の白井勇次郎先生が就任しました。

英語・数学・漢文に重点が置かれ、生徒は最盛期に二五〇名ほどいました。しかし、地理的な悪条件のためか、日清戦争を境にして次第に衰微の兆候を見せ始め、明治三二年ごろには最盛期の半分ほどになっていったようです。

一方、長生学校は、明治二六年六月に、地域の有力者一四名が設立者となつて、現在の茂原市上茂原の妙光寺を仮校舎として開校しました。校主は武田音三郎先生で、初代校長には武田刑部左衛門（哲郎）先生が就任しました。最初は、三〇名にも満たない人数で始めたようですが、明治二九年秋、設立者の一人加藤重恵先生が校長となり、武田刑部左衛門先生と武田音三郎先生が校主となつて、組織の充実や設備の拡充に努めた結果、中等教育を教授する学校として評判となり、生徒は一〇〇名を超えるようになっていきました。そこで明治三〇年には、妙光寺境内に約二〇坪の校舎一棟が建てられました。

この長生学校と上埴生学館は、わずか四キロメートルしか離れてなかつたために、明治三二（一九〇一）年一月には、長生郡長の斡旋によつて両校の合併問題が起きました。明治三二年から三三年にかけて県立中学校が次々に設立される中、明治三四年には両校は合併することになったのです。



上埴生学館



上埴生学館淡如会の印



長生学校印



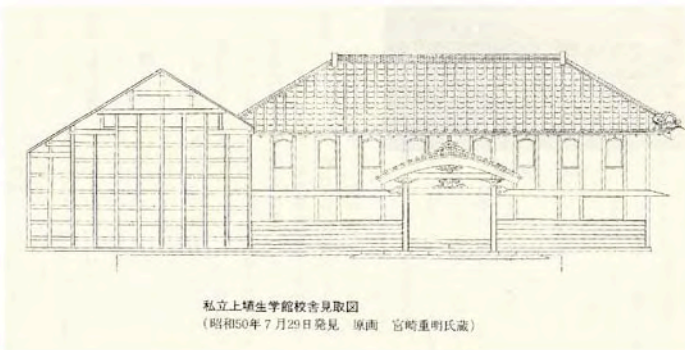
長生学校長印

上埴生学館と長生学校で用いられていた印章です。長生学校印は封書に押されたものです。また、長生学校長印には、2代目校長の加藤重恵先生の名前が見えます。



長生学校想像図

妙光寺境内に建てられた長生学校校舎の想像図です。『創立八十年史』編纂時に描かれたものです。



私立上埴生学館校舎見取図  
(昭和50年7月29日発見 原画 宮崎重明氏蔵)

上埴生学館図面

昭和50年7月29日に発見された上埴生学館の見取図です。原画は宮崎重明家に所蔵されています。

### 鶴岡久行館長と生徒たち

明治20年代も半ばになると、上埴生学館の生徒数も250名ほどになり、県下最大の私立学校になりました。洋服姿の生徒もいて、なかなかハイカラな学校だったことがわかります。



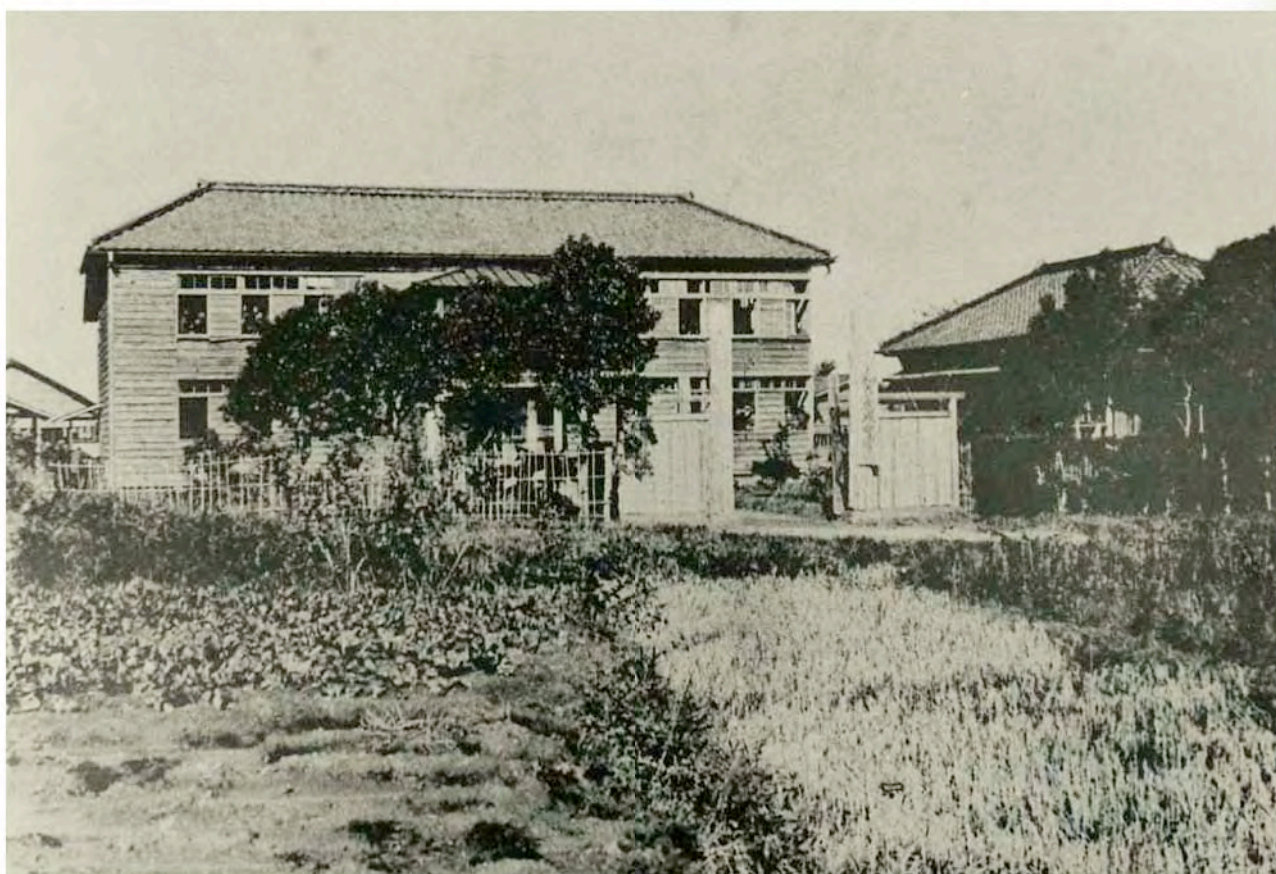
## 二、私立大成館時代

明治三四（一九〇一）年～明治四四（一九一一）年

明治三二（一八九九）年に中学校令が改正され、尋常中学校は中学校と改称、「男子ニ須要ナル中等普通教育」が目的とされました。こうした中、県下には分校も含めて県立中学校が八校も増設され、地方中等教育の活性化がはかれるようになりました。しかし、長生郡では県立農学校が移転してくるようになりました。県立中学校の増設は望めない状況でした。千葉天夢（弥一郎、明治三六年より弥次馬）先生は、神明久作氏や高橋喜惣治氏とともに、上埴生学館と長生学校の合併を促進し私立の中学校設立を計画しました。

足かけ三年をかけたすえ、明治三四年三月に、県から私立大成館（四年制中学校）として設立許可がおりました。四月には、茂原市の藻原寺の本堂を仮校舎とし、千葉天夢先生を館長として、一年から四年まで計五クラスの約一五〇名でスタートしました。そして、翌年五月には、仮校舎のすぐ近くの道表山下に新校舎が竣工しました。新築落成式の式辞の中で、天夢先生は、「一書ヲ裁シ私立上埴生学館長白井喜衛門、私立長生学校理事者武田音三郎ノ二氏ニ致シ二校合併ノ議ヲ懇懇シ、コレヲ大成シテ、益々本郡ノ教育ニ貢献スルトコロアラン事ヲ以テセリ」（『天夢遺稿』より）と、述べています。教師も東京帝大出の文学士日野厚信先生を教頭に新たに迎えるなど、儒学を中心に据えた充実した教育が行われました。

また、私立学校ながら地方教育に果たす使命が認められ、長生郡役所より多額の学校運営費の補助を受けるなど、郡民の期待の中で教育活動が盛んになっていきました。



私立大成館



### 千葉天夢先生

初代館長の千葉天夢先生は、県医師会長を務めた帝国大学医科大学出の医者でありながら、農業研究者でもありました。常に木綿、筒袖の着物を身に着け質素でしたが、社会貢献のためには多大の寄付をしました。天夢館長は教壇にも立ち、修身と生理を教えました。

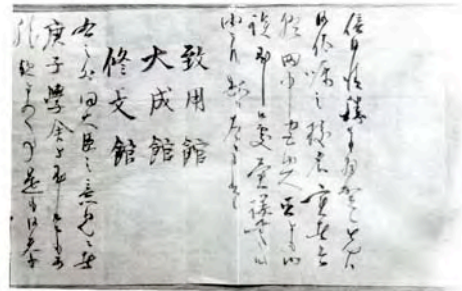


### 大成館の帽章

明治34年3月12日に出された「私立大成館設置伺」の服制の制帽の項に、「徽章 全面二大ノ字一個ヲ附ス」とあります。

### 高橋喜惣治氏から千葉天夢先生への書簡

上埴生学館と長生学校の合併が推進される中、貴族院議員の高橋喜惣治氏から千葉天夢先生へ明治33年12月12日に送られた書簡です。合併後の校名の候補が挙げられています。大成館という名称が初めて出てきた文書です。



### 松本書店前

明治42年に、茂原～長南間11キロメートルの人車軌道が開通しました。大成館の教科書を扱った松本書店前で、定員8人の客車を人夫2人が押して動かしている人車が写っています。

### 明治44年3月 第10回卒業生

五年制の大成中学校へ昇格前の第10回卒業生21名です。



### 私立大成館生徒

明治38年10月、鶴枝小学校で行われた教育展覧会の帰路に千葉家に立ち寄った大成館の生徒たちです。千葉天夢先生が撮影しました。全員が、学帽に筒袖・袴の制服です。



## 文化の光いち早く ― 千葉天夢先生 ―

大成館・大成中学校の礎を築いたのが、千葉天夢先生です。先生は、文久二（一八六二）年生まれで、本名は弥一郎と言いました。明治三六（一九〇三）年からは、世襲名の弥次馬を名乗りました。天夢というのは、先生の号です。上埴生学館と長生学校の合併から、大成館の館長として大成中学校の初代校長として尽力されました。そればかりでなく、長生郡豊栄村（現、長南町）にあった静和女学校を茂原町（現、茂原市）に移転させ、その校長をも引き受けました。長生郡域の教育黎明期を支えた人物です。

先生は、幼少の頃嶺田楓江翁の私塾で学び、明治二三（一八九〇）年に帝国大学医科大学（のちの東京帝国大学医学部）を卒業しました。眼科研修ののち、明治二五年に回春堂（現、永吉の眼科病院）を継承します。江戸時代の寛政年間以来、回春堂は東洋医学の眼科治療を施してきたのですが、時代の変遷の中で近代的医学へと発展させたのが天夢先生ということになります。現在千葉眼科記念館となっている建物が、先生の診療した施設です。

また、教育者・医師としての業績だけでなく、農業指導者や天然ガス井戸の掘削など、幅広い範囲で地域振興のために努力しました。千葉家は、もともと大地主ですから、歴代の当主も農業には深い関心を持っていました。先生はそれ以上に、近代的視点から農業の改善に努力しました。燻炭肥料を用いた天理農法の普及や、千葉家の所有地に県内初の耕地整理を行ったことなどです。天然ガスは、地熱研究家の板垣恭太郎氏を援助し掘削をしたものです。明治四一年に、千葉家の長屋門前にガス井戸を掘りガスが噴出し、これが外房地域の天然ガス採掘の嚆矢となりました。外房線が房総東線といった明治三九年に鉄道国有法ができる前の私鉄時代に、茂原駅の照明は全部ガス灯だったそうです。



現在の千葉天夢先生像



### 30代の千葉天夢先生

天夢先生は、明治23年に帝国大学医科大学を卒業し、明治25年から回春堂を継ぎます。これは、そのころの写真だと推察されます。天夢先生は、若いころより質素を旨とし、よく木綿の筒袖姿で写真におさまっています。

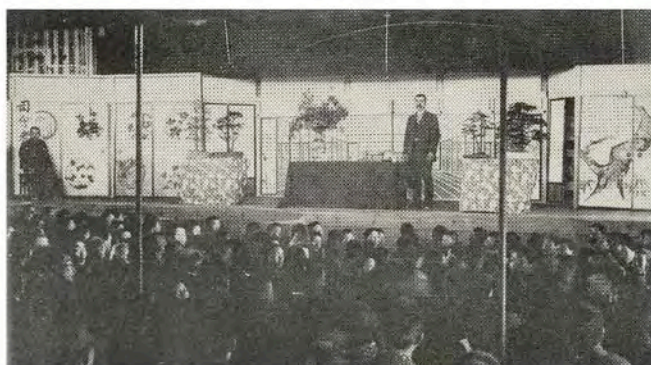
### 千葉家長屋門前天然ガス応用実査風景

房総の天然ガス採掘ブームの嚆矢となったガス井戸の、明治44年の風景です。右から3人目の鳥打帽に和服姿が天夢先生で、右から4人目が板垣恭太郎氏です。



### 模範稲作試作地で田植え

大地主であった千葉家では、米麦作試作地を持っていました。明治35年6月にその試作地で田植えを実施しているところを、天夢先生が撮影したものです。



### 尚風会時局講演会

日露戦争後の明治42年に、天夢先生など民間有志は、県民の気風を改善するために尚風会を組織しました。この写真は、明治45年ごろ宗教学者姉崎正治博士を迎え、亀齢館で行われた講演会のときのものです。天夢先生は司会者として写っています。



### 天夢先生の筆跡

千葉眼科記念館の2階の壁に残された天夢先生の筆跡です。日露戦争の旅順港閉塞作戦での広瀬武夫中佐について書いています。その時々思いが伝わってきます。



天夢先生像除幕式



除幕式参列者



除幕式に参列する長中生と静和高女生

昭和8年11月5日、千葉県立長生中学校開校10周年記念式典時の同窓会で、天夢先生の銅像建設が発議されました。多大な募金が集まり、昭和10年に帝国美術院参与の沢田晴広氏(のち政広と改名)によって、天夢先生の全身像が制作されました。題字は、外務大臣経験者で枢密院顧問官の石井菊次郎氏、撰文は文学博士の白鳥庫吉氏と錚々たるメンバーによって先生の遺徳が顕彰されました。これらの写真は昭和10年12月15日の除幕式の時のものです。天夢先生の孫の千葉東弥氏(江風氏の長男)と千葉総子さん(三郎氏の長女)によって幕が切って落とされました。



### 三、私立大成中学校時代

明治四四（一九二一）年～大正二二（一九三三）年

私立大成館は、明治四一（一九〇八）年度に当初の目的生徒数三〇〇名を達成し、隆盛をほこつてきました。しかし、四年制の中等教育機関であったために、上級学校への進学資格がありませんでした。県立中学校のように五年制にして、中学校令による中学校への昇格を願う声が大きくなりました。千葉天夢先生と大田謹三郎先生そして白井勇次郎先生の三名を法定設立者として認可申請を行い、明治四四年に私立大成中学校として認可されました。そして、この年の入学生の一部には、初めての入学試験が課せられました。

大成中学校の校舎風景には、よく道表山の老松が写っています。校舎脇には「酒盛塚の老松」（昭和四〇年に県天然記念物指定、昭和四九年に虫害のために枯死）として有名な松もありました。松に囲まれた学園生活であったためか、校友会の雑誌部の機関誌は、『松風』と題しました。大正二（一九一三）年の六月に創刊されたこの『松風』は、大正一一年まで一五号を数え、当時の様子を今に伝えてくれます。『松風』の二号には、県下の中学校の入学志願者と入学者数が記載されています。大成中学校は、一八一名の志願に対して一〇〇名の入学で、千葉中学校に次いで県下第二位の入学難の学校であったことがわかります。私立中学校ながら、入学難であったことは、郡民の期待をうかがわせます。また、筒袖に袴の質素な制服姿は、「質実剛健」の気風をよくあらわしています。この筒袖に袴の制服は、大正一一年に改正され、黒ボタンに洋服となりました。

大正一〇年三月に、中学校の本館校舎が全焼しました。しかし、関係者一同の努力で、大正一一年正月には再建されました。この時の校舎は、県立移管し高師が原に移転後、私立静和高等女学校（現在の茂原高校）の校舎として用いられることになりました。



大正 11 年再建の私立大成中学校校舎



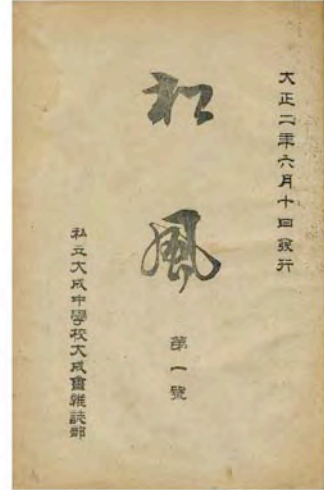
### 石井菊次郎外相

大正5年3月10日、現在の茂原市真名出身の男爵石井菊次郎外務大臣が来校しました。長生郡出身で初の大臣となり、石井・ランシング協定を締結したことで有名です。校庭にある千葉天夢先生像台座の「千葉彌次馬先生像」という字は石井菊次郎氏の揮毫です。



### 修道館扁額

大正6年の暴風雨で、雨中体操場が倒壊しました。新体操場として大正9年2月に完成したのが「修道館」です。この扁額は千葉天夢先生が揮毫し、白井喜右衛門先生が彫刻したものです。



### 松風第1号

大正2(1913)年、大成会と称した校友会に、文化系としては初の「雑誌部」が創設されました。日野厚信教頭を顧問として、県立移管までに15号を数えました。



### 私立大成中学校校舎遠景

### 私立大成中学校 第2回卒業生

大正6年3月の第2回卒業生です。中学校に昇格したころより、筒袖・袴の制服を洋服へ改正したいとする嘆願が何度もなされたようです。しかし、千葉天夢校長は、頑として筒袖にこだわりました。この写真も卒業生は、皆筒袖です。



## 四、千葉県立長生中学校時代

大正一二年～昭和二三年

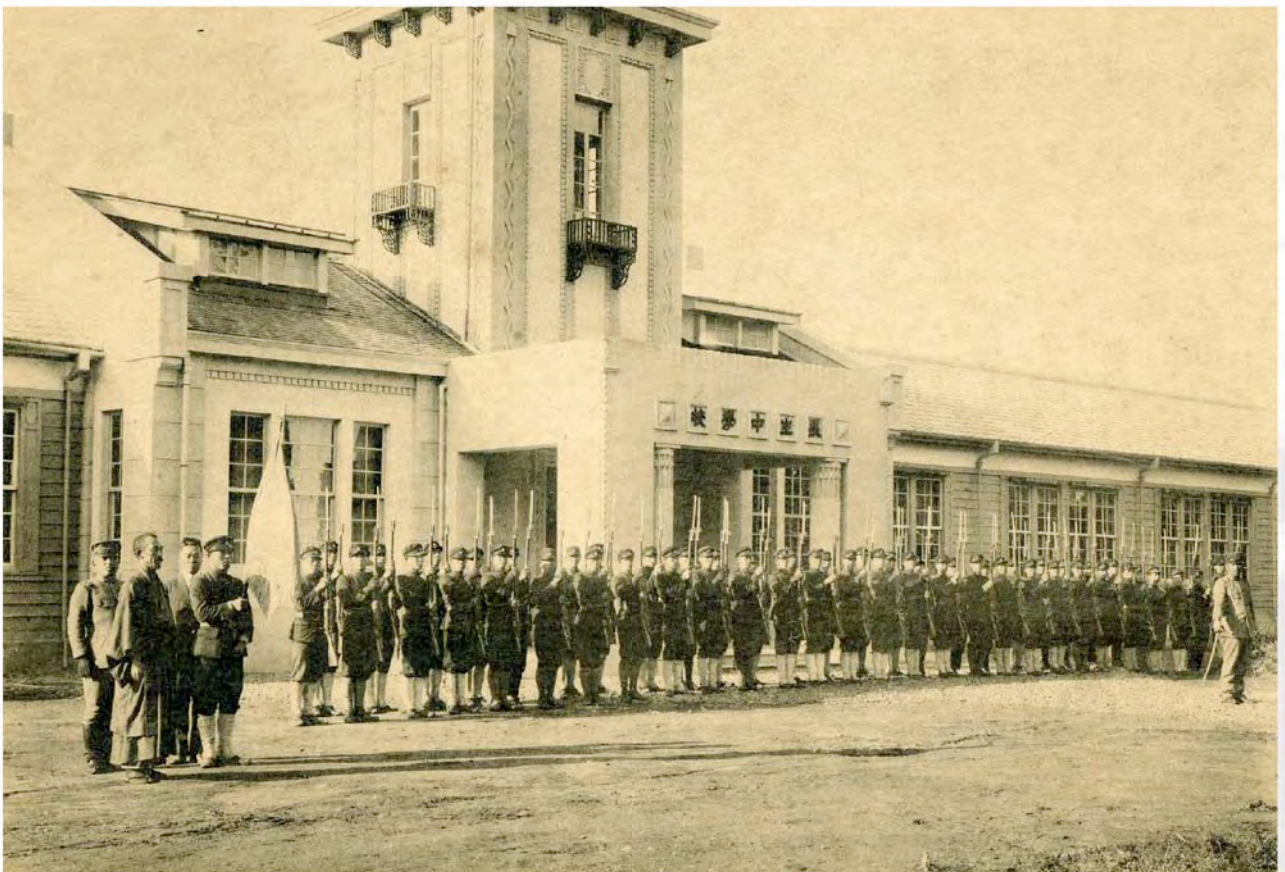
私立大成中学校は、大正一一年（一九二二）年から一学年三クラスとし、志願者も三〇〇名を超え、塚田芳太郎校長のもとで隆盛の時期を迎えました。翌年に念願の県立移管を果たし、千葉県立長生中学校と改称されます。校名は、当時の県立中学の大部分が郡名を付けていたことに、県当局がならったようです。九月一日の県立移管式典挙行中に、関東大震災が起こったこともあり、長生郡民の記憶に残る年となりました。

また、高師地区の有力者が敷地を寄付したことによって、現在の校地に校舎を新築しました。段階的に移転し、大正一五年には、全学年が「高師が原」に揃いました。

この時代は、日本の教育が自由主義から軍国主義への転換した時でした。政府は、大正一四年に中学校、師範学校、高等専門学校に現役の陸軍将校を配属しました。また、金融恐慌から昭和恐慌にかけての揺れ動く経済の中で、昭和四（一九二九）年には、国体観念明徴と国民精神の作興を目的とした地方教化動員実施案を出し、教育も「思想善導」の名のもとに、個より全体を優先する風潮が強まりました。昭和六年には、中学校令施行規則の抜本的改正が行われ、「国体明徴・勤労愛好・実用知識の重視・精神鍛錬」を中心眼目とする国家主義的教育へと変貌していきました。

こうして、学園生活では、軍事教練に重きが置かれる時代となったのです。また、日中戦争から太平洋戦争の時代では、教育現場も戦時色一色とならざるを得なかったのです。

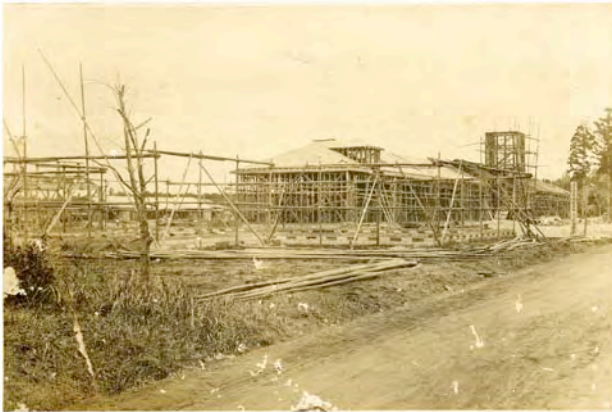
長中の歴史は、「高師が原」とともに昭和戦前史の激動の中を駆け抜けていったのです。



昭和2年卒業アルバム「捧げ銃」

### 県立移管後の記念写真

大正12年に念願の県立移管を果たし、9月1日に県立移管式典を実施しました。挙行中に、関東大震災が起こったこともあり、長生郡民の記憶に残る年となりました。



### 工事中の旧校舎 大正13年2月頃

高師が原に建築途上の旧木造校舎です。



### 長生中学校時代の正門通り

正門には、「真土使用総芝張り」の土塁が盛られていました。県立長生中学校の校歌は、「それ南総の一聖地」で始まりませんが、まさに聖地を示しているようでした。



### 当時新調の校旗

大正13年の5月に実施された、第2回目の大運動会で新調の校旗奉戴式を実施しました。この校旗は、随分痛みましたが現在も実存しています。創立120周年を記念し、長生中学校の校旗は新調されました。



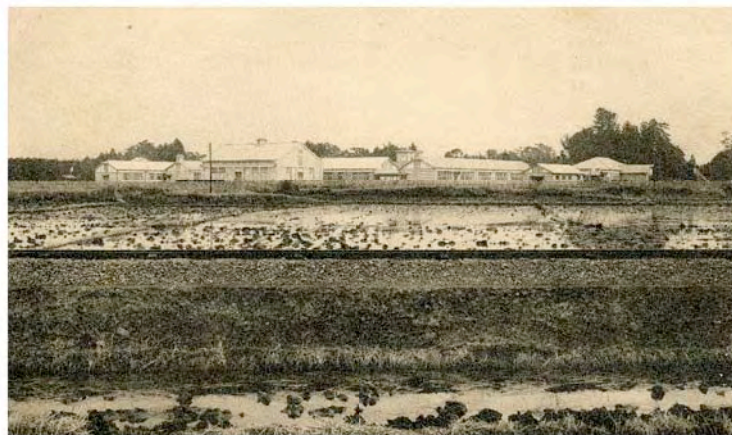
**塚田芳太郎先生**

先生は、私立大成中学校から県立長生中学校で教鞭をとられました。特に、千葉天夢先生の後を受けて校長となり、県立移管させる原動力となりました。先生は、漢文学者でもあり、富山房の漢和辞典の編纂にかかわりました。

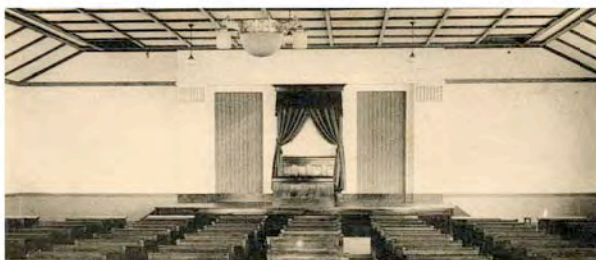


**長中第1回卒業生**

大正13年3月7日に、県立としては初の卒業式が挙行されました。



**房総東線をへだてた長生中学校校舎遠望**



**昭和3年当時の講堂**

この年、昭和天皇および皇后の御真影が宮内庁より下賜されました。講堂の正面中央が御真影格納所です。



**昭和3年授業風景**



### 道表山に射撃場完成

昭和7年、長生郡在郷軍人会が満州事変1周年を記念して、道表山の池の奥に射撃場をつくりました。本校も軍事教練で使用し、実弾射撃訓練を行いました。

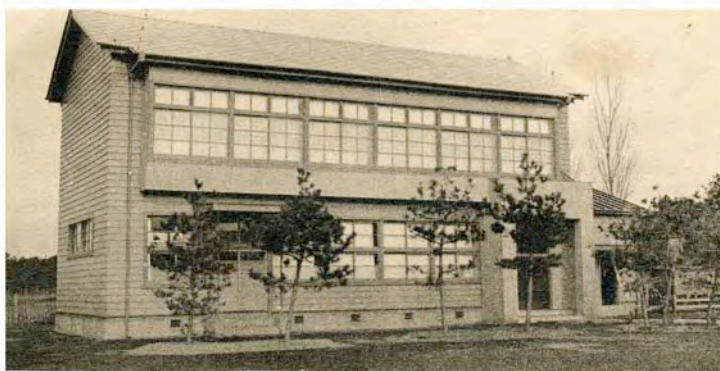
### 県立移管10周年記念大運動会

昭和8年11月に県立移管10周年式典が挙行されました。この写真は記念大運動会のもので、万国旗のはためきが印象的です。



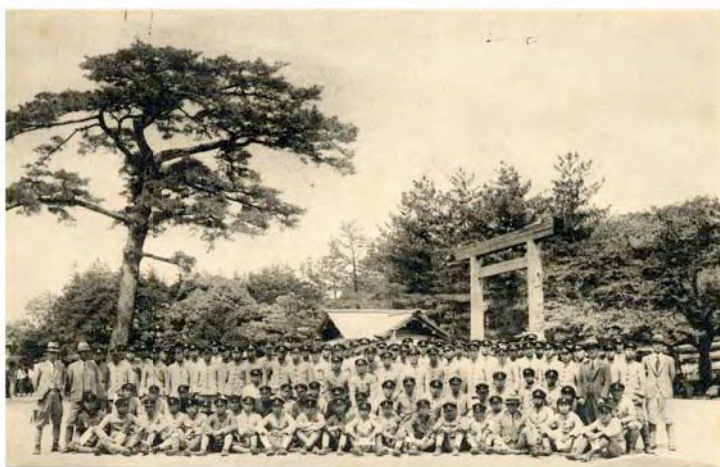
### モダンな図書館落成

昭和12年11月に完成した図書館兼修養堂です。階上が修養道場になっていました。この建物は後に梨葉館と称されるようになります。



### 戦前最後の関西旅行

昭和15年5月に、5年生105名で実施された5泊6日の関西旅行の写真です。時局柄、学校行事としての旅行は禁止されていたのですが、皇紀2600年にあたり、敬神崇祖の念を養うということで、伊勢皇大神宮への修学旅行が認められました。



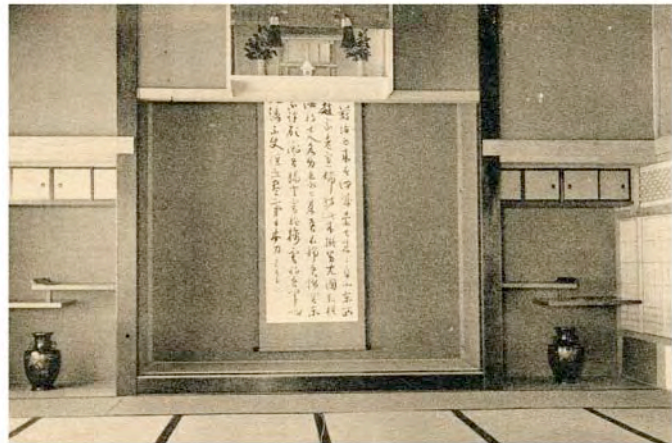
### 製炭班大活躍

昭和14年12月に木炭が配給制となり、昭和15年9月から園芸部に製炭班を設け木炭の製造に踏み切りました。終戦にいたるまで熱心に活動を続けました。



### 修養道場の国民神殿

毎月1日全校生徒が参拝しました。



### 滑空訓練風景

昭和16年に報国団結成とともに、滑空訓練班が新設されました。皇紀2600年の記念事業の一環として、校友会ではグライダー部新設を計画していましたが、校友会の報国団への改変に伴い、報国団国防訓練部滑空訓練班として誕生しました。



### 新鋭機「長中千葉号」命名式

昭和17年5月に、伊藤飛行機株式会社に注文中のグライダーが完成し、山本校長が命名中の写真です。

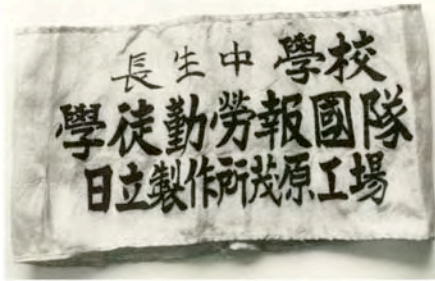
### 初の滑空訓練査閲

昭和18年12月に行われた軍事教練の査閲で、初めて滑空訓練の査閲も行われました。



### 食糧増産に励む師弟

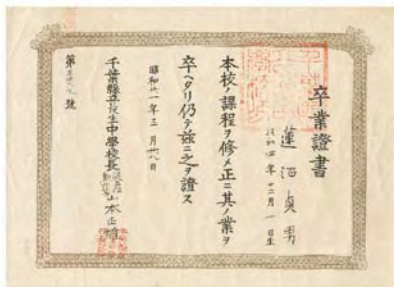
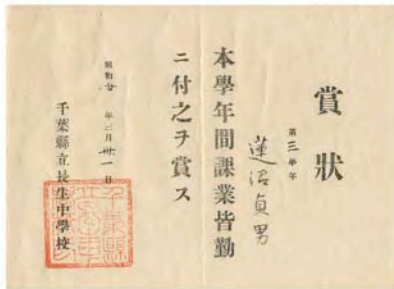
昭和18年の校地が開墾され、食糧増産を目指している様子です。農繁期の援農勤労奉仕にとどまらず、野球のグラウンドやテニスコートも開墾され、甘藷などが植えられました。



勤勞報國隊の腕章



昭和19年の教員群像



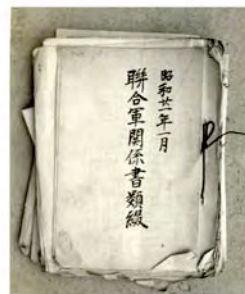
卒業証書・皆勤賞の賞状

戦後まもなくの証書と賞状です。時代を示すかのように、紙の質の悪さが目立ちます。



長中名物大仮装行列

昭和22年の仮装行列の写真です。



GHQの指令・通牒類

終戦後、連合軍最高司令官総司令部からの指令や通牒の綴りです。

## 軍事教練

大正一四（一九二五）年に、陸軍は「陸軍現役将校学校配属令」を公布し、軍事教練を始めました。昭和二〇（一九四五）年の終戦まで正課の中で、軍事教育が実施されたのです。最初に配属将校として本校に配属されたのは、土陸村（現在の陸沢町）出身の田中馨歩兵大尉（第五七連隊大隊副官）でした。すでに、この年の秋から野外演習などの軍事教育が盛んとなりました。本校の軍事教育の歴史を略記しておきます。

大正一三（一九二四）年 五年生の修学旅行で佐倉連隊の管内一泊  
大正一五（一九二六）年 佐倉連隊長山崎定義大佐による初の教練査閲

県下中学校第一回連合演習

昭和 三（一九二八）年 第三回教練査閲時に東久邇宮稔彦王の視察

長生・山武・夷隅の五中学校、連合発火演習

昭和天皇の御親閲

昭和 五（一九三〇）年 長生・市原・夷隅三郡内中学校連合演習

昭和 七（一九三二）年 軍人勅諭下賜五〇周年記念式典

昭和 八（一九三三）年 県下一の教練校として評判となる

昭和一〇（一九三五）年 乃木將軍遺品展の全校参観

昭和一四（一九三九）年 県下中学校連合演習初の夜間演習実施

昭和一六（一九四一）年 長中報国団誕生 滑空部・鼓笛隊新設される

長生中学校報国隊編成

昭和一八（一九四三）年 クラスの名称が、アルファベットから数字へ

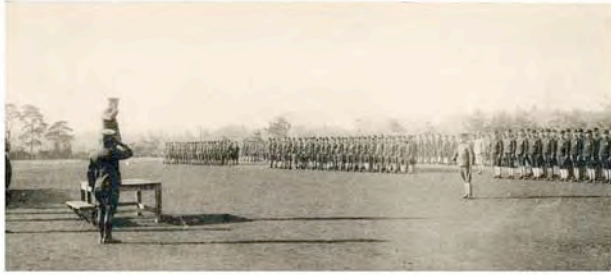
昭和二〇（一九四五）年 学校工場開設

### 初代配属将校田中馨大尉

大正一四（一九二五）年四月一日に公布された「陸軍現役将校学校配属令」によって、四月二十二日付で発令されたのが、土陸村（現、陸沢町）の出身で、歩兵五七連隊（佐倉連隊）の大尉副官であった田中馨大尉です。



閱兵・分列式（毎週水曜日実施）



### 厳肅な査閲場風景

大正15年2月9日に行われた、軍事教育の成果を検査するという第1回目の査閲風景です。この時の査閲官は、歩兵57連隊長の山崎定義大佐でした。



### 東久邇宮の御台臨

昭和3年1月の第3回査閲の時に、当時第1師団司令部付の陸軍大佐であった東久邇宮稔彦王が台臨されました。向かって右から3人目が東久邇宮稔彦王です。



### 連合発火演習・猛烈な射撃戦

昭和3年1月に行われた長生・山武・夷隅郡の5中学校による連合演習風景です。当日は、57連隊から軽機関銃4門が配備され、猛烈な射撃戦を演じました。



### 八幡神社における必勝祈願祭

太平洋戦争時には、たびたび八幡神社での必勝祈願祭が実施されました。この写真は昭和17年のものです。



### 連合演習で小休止

昭和17年10月に習志野原で実施された県下中学校連合夜間演習時の小休止風景です。

## 高師が原に若人の ——校舎航空写真——

長生高校と言えば、同窓生が最初に思い起こすのは、「高師が原」の学び舎での生活でしょう。この地に校舎が移転したのは、県立長生中学校になってからです。移転のいきさつを振り返ってみましょう。

大成中学校は、大正一二（一九二三）年に念願の県立移管を果たし、千葉県立長生中学校と改称されます。校名は、当時の県立中学の大部分が郡名を付けていたことに、県当局がならったようです。この県立移管に伴い、新校舎の予定地が課題となりました。すでに、茂原町（現、茂原市）高師区の永瀬謙吉氏、吉野甚蔵氏、山田忠之氏などの尽力と斡旋で、茂原町高師字諏訪之池二八六番地を中心とした土地約一万坪が県に無償で提供されていました。

翌大正一三年になると、移転計画は急速に実現へと向かっていきました。二月の末から、生徒と職員が整地作業を行い、新校舎建築の第一期工事が始まりました。大正一四年には、第一期工事が竣工しました。第三学年から五学年までが新校舎に移転し、六月一日に新築落成記念式典が挙行されました。このうち、六月一日を創立記念日としています。

大正一五年には、第二期工事も竣工し、全学年が「高師が原」に揃います。ですから、「高師が原」は、昭和・平成の長生高校の歴史の舞台となったわけです。

下の写真は、大正一四年六月一日に新築落成記念式典前に新校舎に入校する様子を捉えたものです。道表山下の旧校舎から、楽隊・剣付銃を担いだ武装生徒に護衛された校旗・校長・職員・生徒約六〇〇名が市巾着を行進してから、大アーチをくぐり入校するところです。

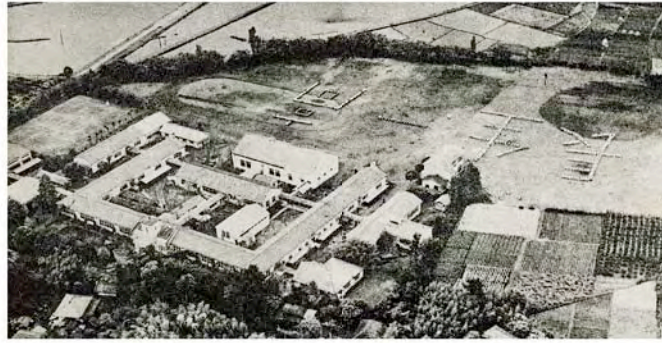
つづいて、航空写真によって、「高師が原」の各年代を見ていきましょう。昭和時代の長生高校の変遷が見えてくるようです。



昭和初期ごろ



校旗を先頭に高師が原の新校舎へ



プール完成前・長生一高の人文字



昭和46年 プール前旧校舎取り壊し中、第二棟完成時



昭和30年ごろ プール完成後



昭和60年 外房線高架工事中



昭和35年



昭和60年プール側から



昭和46年

## 五、千葉県立長生高等学校時代

昭和二二（一九四七）年、教育基本法が制定され、同時に制定された学校教育法により、四月から六・三・三・四の新学制が発足しました。新学制と共に、県立長生中学校及び併設中学校となり、翌年の昭和二三年には新制高校へ昇格しました。この年は、創立六〇周年の年でもありました。ちょうど節目の年に、千葉県立長生高等学校としてスタートしたのです。昭和二四年三月五日に新制高校第一回の卒業式が挙行されましたが、この時、新しい校歌（白鳥省吾作詞、橋本国彦作曲）が斉唱されました。この校歌の詞には、「民主の鐘の鳴るあした」とか「理想に燃ゆる再建の」といった第二次世界大戦後の民主主義の風潮が読み込まれています。

こうした民主主義の気風は、旧制長生中学校最後の年に、「長中論報」という学校新聞が発刊されたことにもあらわれています。残念ながら「長中論報」は一号で廃刊になりましたが、新制高校では、昭和二三年八月一日に編集委員二〇名で「長高時報」が発刊され、現在まで続いています。昭和二五年四月から、県立一宮実業高等学校を合併し、千葉県立長生第一高等学校と改称されました。昭和二八年の県立一宮商業高等学校の分離独立を経て、昭和三六年四月には、再び県立長生高等学校となり現在に至っています。

全日制は、第三棟が竣工した昭和六二（一九八七）年四月以来一学年一〇クラス編成でしたが、平成一三（二〇〇一）年から九クラス編成に、そして平成一六年には現在の八クラス編成となりました。

八クラス編成となった平成一六年に、県教育委員会から進学指導重点校に指定されました。翌年には、単位制と二期制が実施され、新しいスタートを切ることになりました。進路実現に向けて、各自がカリキュラムを選択し、切磋琢磨できる学校として新たに歩み始めました。進路行事も受験指導のみにとどまらず、職業研究を踏まえた進学を目指せるように工夫されています。



現在の長生高校の航空写真



長高近くで 校歌作詞者白鳥省吾氏



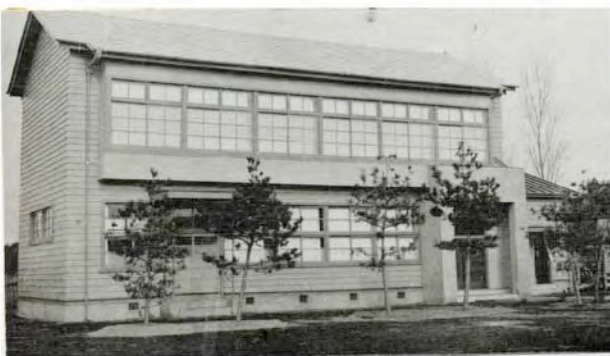
千葉県立長生第一高等学校旧校舎正門



昭和23年第1回高校総合体育大会排球部優勝



千葉県立長生高等学校旧校舎正門



昭和25年旧図書館が梨葉館となる



昭和25年男女共学1期生



旧校舎生徒通用門



昭31年図書館にて学習



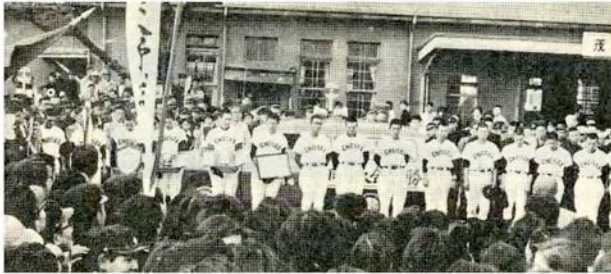
男女共学初期のころの授業風景



昭和33年改装なった旧体育館内部



昭和29年ごろ旧講堂内部



昭和35年野球部関東大会優勝茂原へ凱旋



昭和29年の陸上競技部員  
前列右端がオリンピック選手の志田順子さん



昭和37年駅前清掃をする奉仕班員



昭和30年サッカー部県下3連続優勝し横浜国体出場



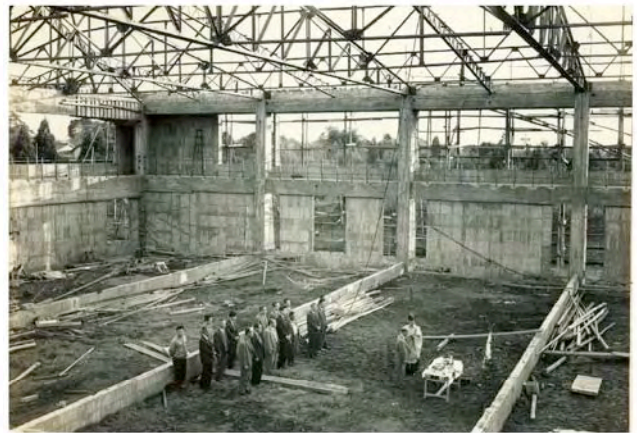
昭42年校舎全景



昭和38年梨葉館にて長高うどん



昭和43年完成した新校舎1棟



昭和39年新体育館上棟式



昭和40年新体育館落成記念式典



昭和44年頃応援団練習風景



昭和43年新校舎から見た梨葉館



昭和45年建設中の新校舎2棟



昭和43年頃授業風景



昭和47年運動部室の建設



昭和44年長崎国体に出場した女子バレーボール部



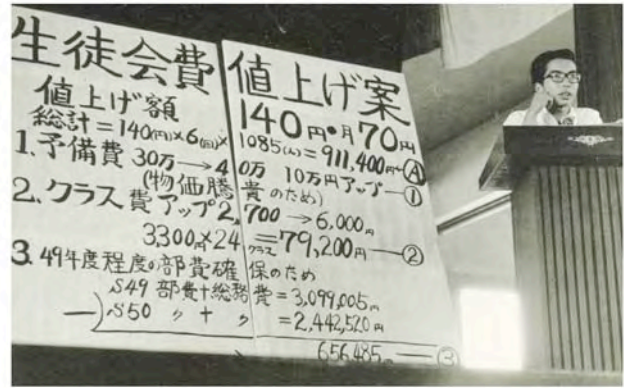
昭和49年登校風景



昭和44年理数科1期生臨海実習



平成3年生徒会立会演説会



昭和50年生徒総会



平成4年芸術鑑賞会



昭和50年昼食風景



平成5年スポーツテスト



昭和62年第3棟増築



平成16年剣道部



平成12年野球応援



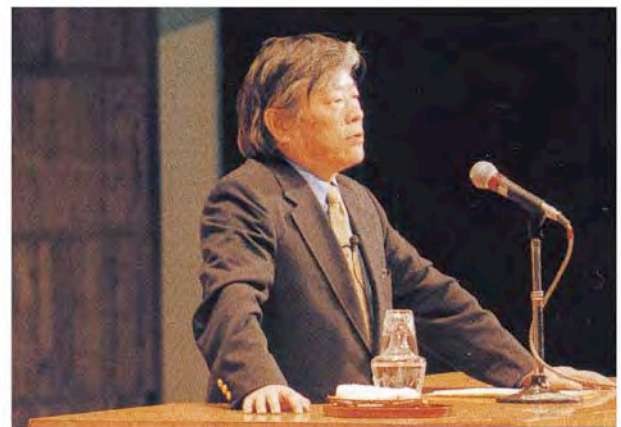
平成16年野球応援



平成13年パンを買う行列



平成19年演劇部関東大会出場



平成13年利根川進氏講演会



長生一高校旗



平成19年球技大会



長生高校旗



平成20年サッカー部県大会ベスト16



校舎夜景



平成20年放送部NHK杯決勝大会

## 上総の春に輝きぬ — 長高の四季 —

春夏秋冬の中の校舎風景を、八枚の写真にまとめました。  
入学式や新学年を迎える長高には、桜がお似合いです。  
灼熱の太陽のもと部活動に明け暮れた運動部の夏。三年では、暑い中  
汗を拭きふき頑張った課外授業の思い出もあるでしょう。

何か物悲しい秋には、校庭の紅葉や中庭の銀杏が思いだされます。  
大学入試センター試験から大学入試、そして卒業式と雪にまつわる思  
いの冬の校舎も素敵です。



春



夏





秋



冬



# 学びの窓にこだませり — 授業風景 —

大好きな授業、ちょっと苦手な授業。授業こそが高校生活の大部分でした。年をおって授業風景を並べてみました。



昭和46年



生物臨海実習  
1971年7月22日～24日  
勝浦市磯原清海小学校



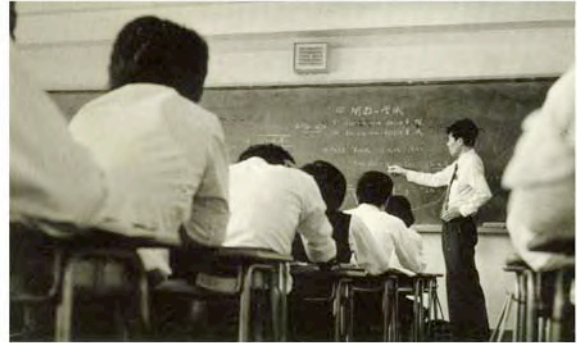
昭和47年理数科臨海実習



昭和49年



昭和53年



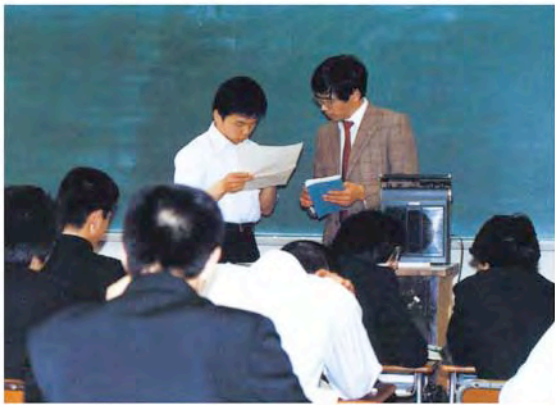
昭和50年



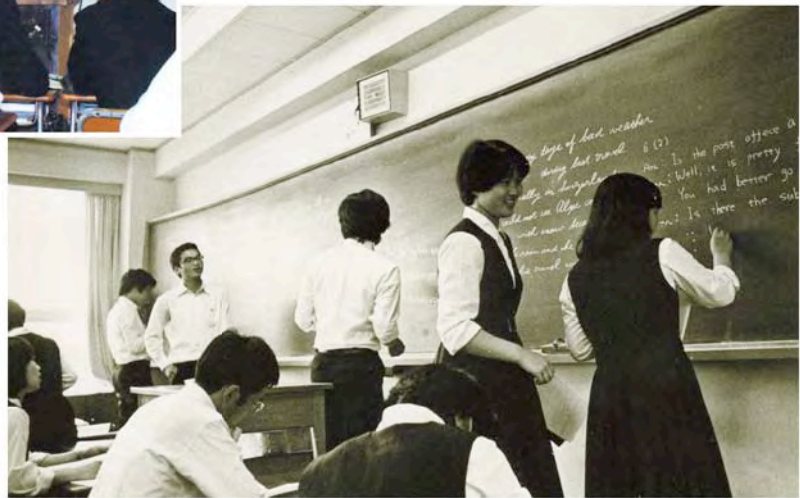
昭和58年



昭和51年



昭和59年



昭和52年



平成2年



昭和62年



平成6年



平成元年



平成8年



平成2年



平成12年



平成11年



平成17年



平成11年



平成19年

勢うも楽し空晴れて — 体育祭 —

色別対抗での体育祭。時代によって種目は違いますが、流した汗と感動の大きさは同じです。また、先生方を仮装させたり、部活動対抗リレーなどほのぼのとした競技もありました。



昭和29年



昭和31年



昭和34年



昭和32年



昭和35年



昭和35年



昭和38年



昭和36年



昭和48年



昭和39年



昭和50年



昭和40年



昭和51年



昭和41年



昭和52年



昭和44年



昭和53年



昭和57年



昭和47年



平成2年



昭和58年



平成3年



昭和59年



平成4年



昭和61年



昭和62年



平成5年



平成元年



平成14年



平成15年



平成8年



平成9年



平成18年



平成10年



平成19年



平成11年

## 励めよ共に溢るる力 — 文化祭 —

文化祭も高校生活の良き思い出です。クラスの出し物や模擬店では、裏方になってクラスを支えたこともありました。文化部では、まさに日頃の練習や研究の発表の場でした。有志による出し物も、みんなでノリでした。

美術室には文化祭ポスターの原画が数多く残されていました。ポスターはその文化祭の象徴として、文化祭での出来事を思い起こさせてくれるでしょう。

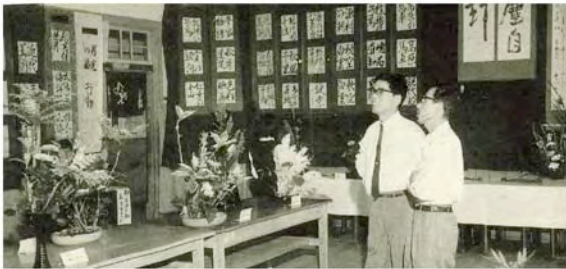
昭和32年



昭和34年



昭和36年



昭和41年



昭和39年



昭和42年



昭和40年



昭和51年



昭和44年

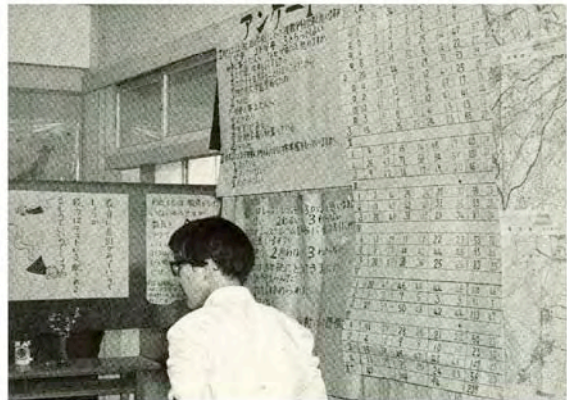
昭和52年



昭和47年



昭和56年



昭和48年



昭和57年



昭和50年



昭和58年



平成4年



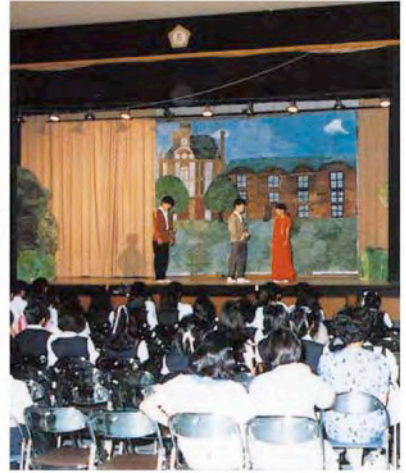
平成5年



平成6年



平成7年



昭和61年

昭和62年



平成元年



平成2年



平成3年



平成13年



平成8年



平成14年



平成9年



平成15年



平成10年



平成16年



平成11年



平成18年



文化祭のアーチ・ポスター



昭和59年 第24回アーチ



昭和59年 第24回ポスター



昭和52年 第17回ポスター



昭和54年 第19回アーチ



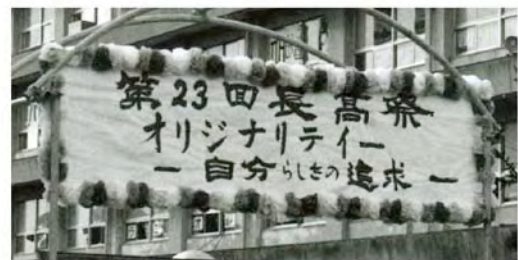
昭和60年 第25回アーチ



昭和60年 第25回ポスター



昭和56年 第21回アーチ



昭和58年 第23回アーチ



昭和63年 第28回アーチ



昭和61年 第26回アーチ



昭和63年 第28回ポスター



昭和61年 第26回ポスター



平成元年 第29回アーチ



昭和62年 第27回アーチ



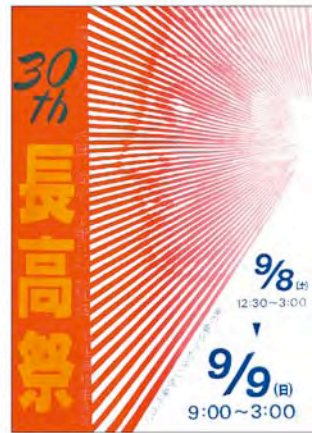
平成元年 第29回ポスター



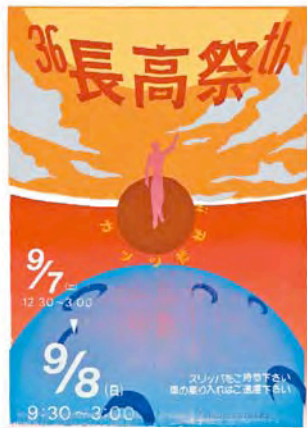
昭和62年 第27回ポスター



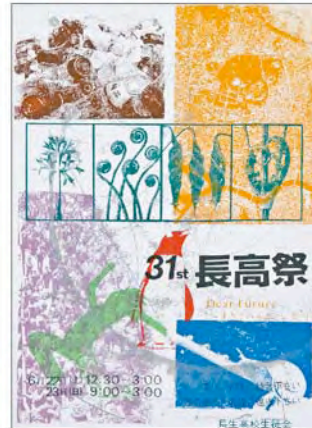
平成6年  
第34回ポスター



平成2年  
第30回ポスター



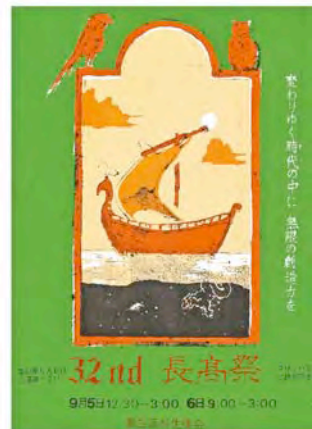
平成8年  
第36回ポスター



平成3年  
第31回ポスター



平成11年  
第39回ポスター



平成4年  
第32回ポスター



平成12年  
第40回ポスター



平成5年  
第33回ポスター



平成17年  
第45回ポスター



平成13年  
第41回ポスター



平成18年 第46回ポスター



平成14年  
第42回ポスター



平成19年  
第47回ポスター



平成15年  
第43回ポスター



平成20年 第48回ポスター



平成16年  
第44回ポスター

## 修学旅行

高校生活の第一番の思い出に、修学旅行をあげる同窓生が数多くいるでしょう。親元を離れ、心ゆくまで友と語り合い、教室では見たことのない友の横顔を見る。この写真の中にそんなひと時が潜んでいるでしょうか。



昭和29年



昭和34年



昭和35年



昭和42年



昭和39年



昭和43年



昭和44年



昭和41年



昭和57年



昭和49年



昭和58年



昭和50年



昭和59年



昭和51年



昭和61年



昭和53年



平成6年



昭和63年

平成7年



平成元年



平成8年



平成2年



平成9年



平成5年



平成15年



平成10年



平成16年



平成11年

平成17年



平成13年



平成19年



平成14年

## 新しき道いざ行かむ ― 創立記念式典 ―

長生高校は県下でも有数の進学校として、多くの有為な人材を輩出してきました。そうした学校を愛する諸先輩方のご助力もあって、創立記念式典の度に施設設備が充実し、学校制度も整えられてきました。

創立六〇周年（記念式典は昭和二十三年一〇月二三日、富田英夫校長）の時は、千葉天夢先生大理石胸像の再建や校舎改修が計画され、新校歌制定も事業の中に位置づけられました。天夢先生の像の再建工事は、昭和二十四年七月に竣工しました。また、新校歌は記念式典に間に合わず、昭和二十四年三月五日の新制高校第一回の卒業式で斉唱されました。

創立七〇周年（記念式典は昭和三十三年一〇月一五日、林信義校長）の時は、理科室と体育館の改修とともに、防火用水兼用でプールが建設されました。

創立八〇周年では、記念事業として昭和四〇年一月の新体育館落成を手始めに、全面的に新校舎が建設されることになりました。新校舎の第一棟は、昭和四四年五月に竣工し、第二棟は昭和四六年五月に竣工しました。そして、給食室兼食堂が一二月に出来上がり、昭和四七年一月二〇日に創立八〇周年記念式典（長谷屋武弘校長）が挙行されました。

創立九〇周年（記念式典は昭和五三年六月一日、戸田八蔵校長）の時は、同窓会の各支部がそれぞれの市町村の木を校庭に記念植樹しました。

創立一〇〇周年（記念式典は昭和六三年一月二日、久保木千寿校長）の時は、運動部室増設改修などとともに、玄関前に校歌や校訓が刻まれた記念碑が建立されました。

創立一一〇周年（平成一〇年一月七日、杉崎孝男校長）の時には、同窓会によって、旧講堂に掲げられていた板倉花巻先生の「大器晩成」の額からとられた大器晩成の碑が建立されました。



創立120周年記念式典



創立60周年記念式典前日の芸能祭



創立60周年記念式典



創立60周年記念旗



創立70周年記念式典



創立80周年記念式典



創立90周年記念式典



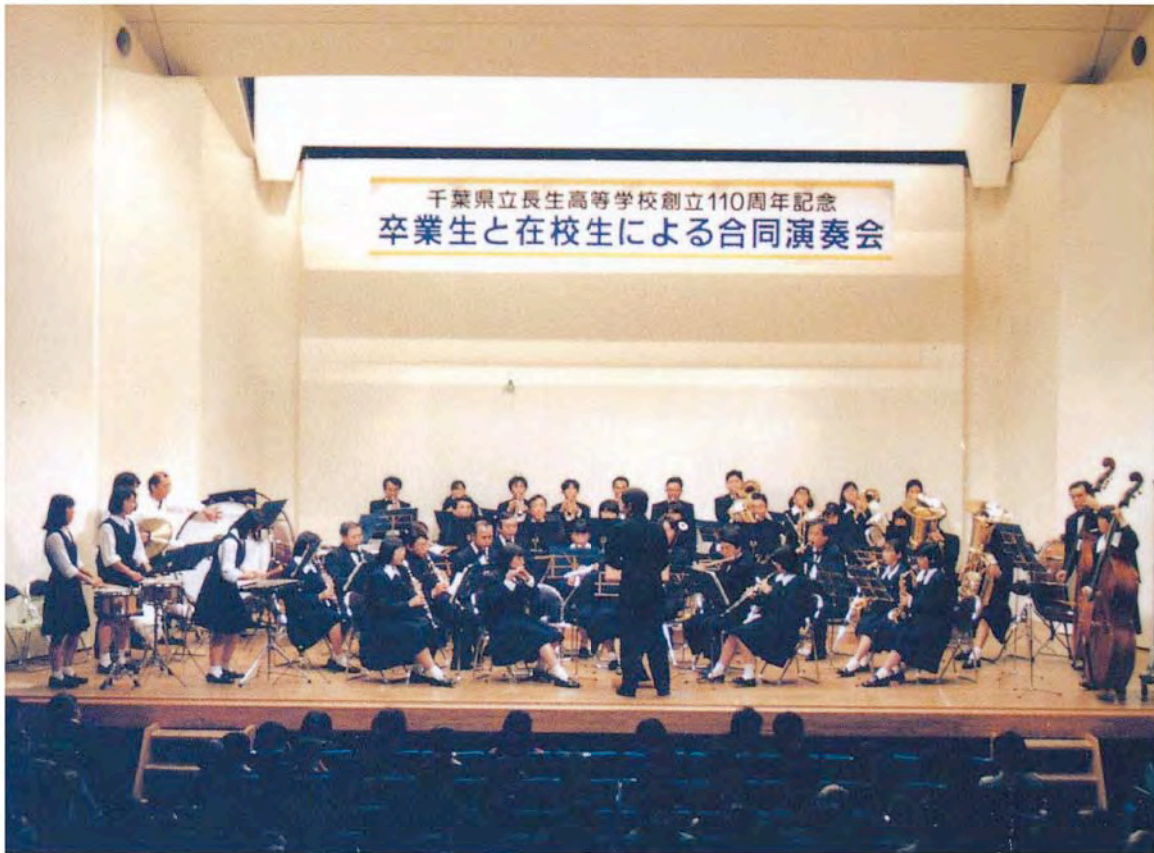
創立100周年記念式典  
式辞を述べる久保木校長



創立100周年記念校歌碑除幕



創立100周年記念式典



創立110周年記念 卒業生と在校生による合同演奏会



長高同窓会報第6号



大器晩成碑除幕式しおり



大器晩成碑除幕式しおり

## 六、定時制六〇周年史

定時制の課程が設置されたのは、昭和二四（一九四九）年三月一四日です。同年四月四日に第一回の入学式が挙行されました。以来歴史を重ね、平成二一年度には創立六〇周年を迎えますが、その歩みは時代や社会の影響を受けることが多く、一様なものではありませんでした。『創立百年史』では、創設の時代、高度経済成長期後の「まがり角」の時代、そして生徒の多様化の時代と三分しています。それに倣えば、現在は引き続き多様化の中で、これからの定時制の在り方を模索している時代と言えましょうか。ここでは、その六〇年を概観してみましよう。

### ■創設の時代

定時制の課程は、普通科二級一〇五名で出発しました。戦後もない時期ゆえに停電故障や停電休講もしばしばであり、生徒の中には失業して退学を余儀なくされる者もいました。しかし、全定一緒に行われた昭和二五年の学検で、定時制の生徒が全定を通じてトップで合格したことに象徴されるように、困難な状況にもかかわらず生徒の勉学意欲は高いものでした。やがて、社会の復興とともに教育環境も徐々に整い、昭和二七年度にはPTAと生徒会が結成され、修学旅行が実施されました。昭和三〇年度からはクラブ活動がスタートしました。中でも野球部の活躍はめざましく、県大会でたびたび優勝し、昭和三六年の神宮球場での全国大会では準決勝まで進出しました。

生徒数も増加して、昭和三一年度の一学年は三学級編成となりましたが、昭和三七年度からは商業科一学級が新設されています。定時制の特色である給食は、昭和二九年二月に「ウドン」給食が職員室の一隅で試みられましたが、一か月ほどで中断。完全給食は、昭和三二年に梨葉館の下に調理室と食堂が造られて正式にスタートしました。戦後の復興から成長への軌跡にあわせて、バイクに加えて自動車通学の生徒が出現し始めたのは昭和四〇年頃のことです。

### ■まがり角の時代

昭和四六（一九七一）年五月、第二棟が完成し、定時制職員室、商業実践室、タイプ室などが設置されました。また、同年には給食棟も竣工しています。昭和三〇年代

からの生徒職場懇話会総会は引き続き実施され、バス遠足、夏山登山等々の行事に加えて屋上での「観月会」も昭和五四年まで開催されてきました。この定時制独特の年中行事は、月をめぐる講話や歌唱コンクールなど年ごとに趣向が凝らされてきました。昭和四八年、第一次石油ショックとともに高度経済成長の時代は終わり、定時制にも大きな変化が訪れます。定時制の生徒の就職は冷え込み、昭和四八年には商業科の募集が停止されました。この年には一三あったクラブも昭和五三年には五つに精選されることになりました。しかし、修学旅行の隔年開催や校内カルタ大会の開始など行事に工夫が加えられ、学校生活の充実に向けての努力が続けられています。

### ■多様化の時代

多様な生徒が入学してくる状況は、勤労生徒が年を追って減少したことに象徴されます。昭和四五年には三・九%だった非勤労生徒は昭和六三年には二八%に増加し、勤労生徒の就業形態もパート・アルバイトが増加しています。生徒数自体も昭和五三年以降一〇〇名を超えることはありませんでしたが、校内では教育内容の充実のためにさまざまな方策がとられています。昭和五八年に完成した野球場の照明もその一つです。昭和六〇年には定時制初めての文化祭が開催されました。

平成の時代に入り、定時制には更なる変化が求められるようになってきています。ニーズに応じる多様な教育を準備するという観点から単位制・無学年制の考え方が導入され、それと連動して三か年で卒業が可能な三年制も検討されるようになりました。本校においても、定通併修や大検（後に高卒程度認定試験）受験による単位認定が可能になり、毎年数名ずつですが三か年で卒業する生徒が出てきました。そして、平成一八年から単位制が実施されて今日に至っています。

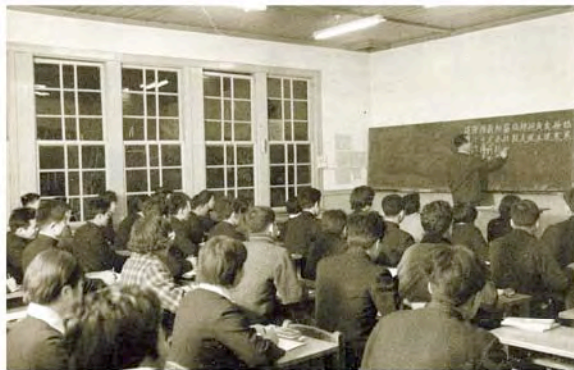
クラブ活動は、ここ数年生徒数の減少等の理由によって休止状態でしたが、平成二〇年度男子バスケットと女子バドミントンが活動を再開。秋の定通新人体育大会に参加し、健闘しました。また、修学旅行も数年ぶりに実施にこぎ着け、晩秋の京都・大阪・神戸を旅しました。

入学してくる生徒をみると、中学新卒の生徒が大半を占めるようになってきました。その一方で、やり直すために入学・編入学してくる生徒も各年次に数名ずつ在籍しています。生徒の入学の動機は多様ですが、一人一人が自分らしさを発揮し、成長していったほしいと願っています。また、その環境を整え、支援することが定時制に課せられた使命であるとも考えています。



### 木造校舎夜景

多くの勤労学生にとっての校舎風景はこの夜景の姿ではないでしょうか。長生高校では、校医千葉保次先生の指導によって、県下の定時制高校の中でもいち早く蛍光灯照明になりました。昭和44年に現在の第1棟が完成するまでの校舎風景です。



昭和35年授業風景



梨葉館



昭和34年体育祭

全定合同体育祭時の応援風景。昭和40年代まで入学者も多く、全定合同の体育祭でも定時制は大変強く、昭和36年～39年には4年連続で優勝しています。



昭和35年度卒業写真

本校定時制は、千葉県立長生高等学校定時制振興会（昭和36年6月12日設立）・千葉県立長生高等学校定時制生徒職場懇話会（昭和31年5月1日設立、生徒の雇用主と学校との連絡協議機関）・千葉県立長生高等学校長志会（昭和27年7月27日設立、定時制PTA）の三者によって支えられてきました。この授業風景や卒業写真のころ、定時制の体制が確立しました。



昭和35年授業風景



### 昭和40年度文芸部誌

文芸部誌は、昭和26年に「夕陽」として創刊され、のちに「あゆみ」と名を改めます。定時制の文化部の象徴として、発刊された「あゆみ」も、昭和47年度に第37号で廃刊となってしまいました。



### 昭和37年給食風景梨葉館2階

夜間定時制として初めて、昭和28年に「うどん」給食が試みられましたが、中断してしまいます。昭和32年に高等学校夜間給食法が成立し、給食が正式にスタートします。本校では旧梨葉館に調理室と食堂がつけられ、完全給食が実施されました。



### 昭和37年給食風景梨葉館1階



### 昭和45年授業風景

昭和44年に第1棟が完成し、鉄筋コンクリートの近代的校舎での授業風景です。



### 昭和37年授業風景



### 昭和46年職員室風景

昭和46年には第2棟が完成し、定時制の関係では、職員室・教具室・商業実践室・和文タイプライティング実習室・簿記室が設置されました。



### 昭和37年授業風景



### 昭和55年夏山登山



### 昭和40年修学旅行

恒例になっていた関西方面への修学旅行の記念写真です。



平成2年定時制創設40周年記念式典



昭和56年カルタ大会



平成5年始業式



昭和60年定通野球大会



平成12年修学旅行



平成2年コンピュータの授業



平成20年修学旅行



平成2年定通野球大会

七、創立一二〇周年記念行事



来賓受付風景



玄関前来宾受付所



式典前コーラス部発表



式典前吹奏楽部演奏



式典前マンドリン部演奏



記念式典開始



校旗登壇



旧制中学・高校校旗入場



国歌斉唱



感謝状授与



時田正樹校長式辞



飯田貴大生徒会長挨拶



安藤轟勇実行委員長挨拶



校旗退場



千葉県知事挨拶 堂本暁子氏



収蔵作品展開会セレモニー



記念講演会 音楽家藤田浩司氏



収蔵作品展



式典前日の芸術鑑賞会 三遊亭楽太郎師匠



祝賀会 時田正樹校長御礼の言葉



祝賀会万歳三唱



11月15日～30日収蔵作品展

校長  
群  
像



初代 千葉彌次馬  
明治34年4月～大正9年7月



長生学校校主  
武田音三郎



上埴生学館館長  
鶴岡久行



4代 澤渡鏡太郎  
昭和2年3月～昭和7年3月



3代 寺内 顕  
大正15年4月～昭和2年3月



2代 塚田芳太郎  
大正9年7月～大正15年3月



7代 伊藤仙藏  
昭和14年4月～昭和17年3月



6代 江中鉄次郎  
昭和8年4月～昭和14年3月



5代 森田要作  
昭和7年4月～昭和8年3月



10代 今 惣吉  
昭和25年4月～昭和27年3月



9代 富田英夫  
昭和23年5月～昭和25年3月



8代 山本正雄  
昭和17年4月～昭和23年5月



14代 羽山孝二  
昭和49年4月～昭和53年3月



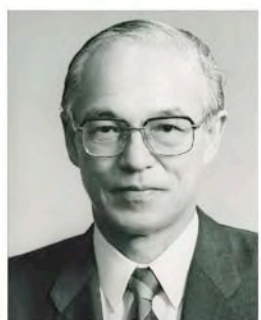
13代 長谷屋武弘  
昭和44年4月～昭和49年3月



12代 橋本 操  
昭和40年7月～昭和44年3月



11代 林 信義  
昭和27年4月～昭和40年7月



18代 吉野幸久  
平成4年4月～平成7年4月



17代 仲岡 武  
平成元年4月～平成4年3月



16代 久保木千壽  
昭和60年12月～平成元年3月



15代 戸田八藏  
昭和53年4月～昭和60年10月



22代 福島義弘  
平成14年4月～平成17年3月



21代 吉澤 肇  
平成12年4月～平成14年3月



20代 杉崎孝男  
平成10年4月～平成12年3月



19代 木村 卓  
平成7年6月～平成10年3月



梨の花



23代 遠藤真澄  
平成17年4月～平成20年3月

## 校章と校訓



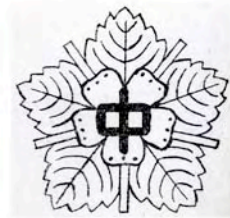
長生高帽章



長生高校章

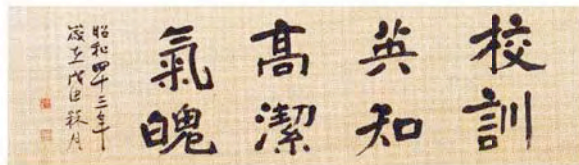


長生中帽章



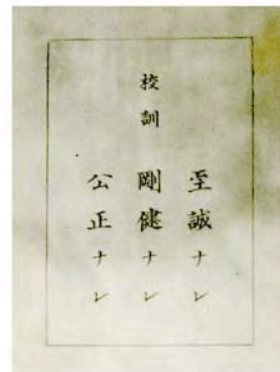
長生中校章

校章の梨葉と花卉は、大成中学校から県立移管され千葉県立長生中学校となったときに、大貫鉄心先生によって作図されたものです。この地方特産の梨を学校の象徴としたのでしょう。また、昭和23年の新制高等学校へ移行した際、生徒及び職員に新校章の図案を募集したところ、多数の応募がありました。その中から、斎藤齊氏（昭和24年度卒業生）の長高の二文字を一文字にまとめて図案化されたものが採用されました。



昭和43年制定された長生高校訓

板倉花巻氏の揮毫



校友会誌に記載された長生中校訓

千葉県立長生中学校時代の校訓は、「至誠ナレ 剛健ナレ 公正ナレ」でした。これは校友会誌第12号に掲載されたものです。新制高校になってからは、長らく校訓がありませんでした。現在の校舎の配置図が決定した昭和43年1月に、橋本操校長は校訓制定に関する提案を行いました。そして、3月の職員会議で「英知 高潔 気魄」と決定し、6月の同窓会の席上で披露されました。ここには板倉花巻先生揮毫による額を掲載しましたが、玄関前には創立100周年の時に建立された校訓碑があります。

## ■参考にした書籍

『創立八十年史』（千葉県立長生高等学校、昭和四七年）  
『創立百年史』（千葉県立長生高等学校、平成元年）  
『千葉天夢先生』（天夢先生銅像原型保存会、昭和六二年）  
『永吉の眼科病院』（永吉の眼科病院、平成二年）  
『天夢遺稿』（千葉弥次馬、昭和一二年）  
その他、各市町村史および各年度の卒業アルバムを参考にしました。

## ■協力者御芳名

茂原市教育委員会教育部生涯学習課  
茂原市立美術館・郷土資料館  
茂原市立図書館  
千葉スタジオ様  
磯野 敬一様 今井 秀雄様  
今井 みよ様 内山寿一郎様  
加藤 時男様 金子 仁様  
河野 敏夫様 関谷 嘉一様  
千葉 東弥様 豊田 雅資様  
仲村 嗣雄様 蓮沼 貞男様  
宮崎 重明様 渡邊 勝実様

## 編集後記

平成一八年一月二四日、第一回長生高等学校創立一二〇周年記念事業実行委員会において、記念事業の一環として『記念誌』の発刊が決定しました。本校では、これまで創立八〇年と創立一〇〇年に、すぐれた調査と研究に基づく校史を発行してきました。同窓会には、その編纂の過程で収集された資料や写真が数多く残されています。そうした写真を見やすく配列し、大まかに長高の歴史を展望できる『写真集』にしようという提案がありました。そこで、残された写真に、新たに発見されたものや卒業アルバムなどから近年のものを加えて編集することとしました。写真収集時にお世話になった方々のご厚意に、この場を借りて御礼申し上げます。

「二〇年」とひと口に言いますが、そこには言葉では言い尽くせない、当事者の喜びや悲しみ、歡喜や落胆、そうした思い出がいつばい詰まっていると思います。もし、ご覧になる同窓の方々が、一枚の「写真」の中に自分の青春を思い起こすことがあれば、望外の喜びです。また、それぞれの写真一枚一枚は、長高の一コマしか示していませんが、まとめると、連綿とつづられた長高大河を見るようです。母校を愛する方々の思い出の「よすが」になれば幸いです。

S & K 記



120周年を記念して、東京長高会と京葉梨葉会の寄贈によって、ソメイヨシノ14本とヒカンザクラ13本が陸上競技場の周囲とサッカー場の脇に植樹されました。写真集の表紙もこの記念植樹にちなんで、サクラの図柄を使用しました。

千葉県立長生高等学校創立一二〇周年記念写真集

長生高校 120年 記念写真集

発行日 ◆平成二二年三月三十一日

編集・発行 ◆千葉県立長生高等学校

創立一二〇周年記念事業実行委員会

住所 ◆〒二九七-〇〇二九

千葉県茂原市高師二八六番地

千葉県立長生高等学校内

電話〇四七五-二二-三三七八

印刷・製本 ◆株式会社さくら印刷

住所 ◆〒二九七-〇〇三五

千葉県茂原市下永吉三九九番地一

電話〇四七五-二二-三五九三

題字：川嶋 充 教諭





幸あれ永劫に我らの誇り我が長高



長生高校 120年のあゆみ

千葉県立長生高等学校創立120周年記念写真集



千葉県立長生高等学校創立120周年記念写真集



長生高校  
120年の世界くよらこよ

